

2014年度 調査結果（2013年4月発行）

外国人留学生の就職活動状況

企業のグローバル競争の激化で、多くの日本企業が外国人留学生の採用に力を入れており、今後ますます増加していくことが予想される。ディスコでは2月下旬から3月中旬にかけ、日経就職ナビに会員登録している外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況など多岐にわたる項目を調査した。比較可能なものに関しては日本人学生（日経就職ナビ・就職活動モニター）の調査データを引用しながら分析したい。

【主な調査内容】

1. 就職戦線の見方と就職後のキャリアプラン	P 2
2. 現時点での志望業界	P 3
3. 就職活動の中心としている企業の規模	P 4
4. 企業へのエントリーとセミナー参加の状況	P 4
5. 将来働きたい国・地域	P 5
6. 就職したい企業の種類	P 5
7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P 6
8. 就職活動および企業研究で知りたいこと	P 7
9. 現在の語学力	P 8
10. 出世希望ランク	P 8
11. 就職したい理由	P 9
12. 日本で就職する際に不安に感じる点	P 9
13. 企業に評価してもらいたいこと	P 10
14. 就職活動に関するアドバイスを参考にしている人	P 11
15. 日本への留学について	P 12

《調査概要》

調査対象：2014年3月卒業予定の外国人留学生（大学4年生、大学院修士課程2年生）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2013年2月26日～3月13日
 サンプルング：日経就職ナビ2014に登録している外国人留学生3,992人

回答者の属性 単位：人

	男子	女子	合計
文系	93	150	243
理系	55	27	82
合計	148	177	325

大学院	170
学部	155
合計	325

国公立	154
私立	171
合計	325

●出身国・地域

中国	韓国	台湾	東南アジア	南アジア	東欧	アフリカ	北米	中南米	その他	合計
251	34	25	7	1	2	2	1	1	1	325

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

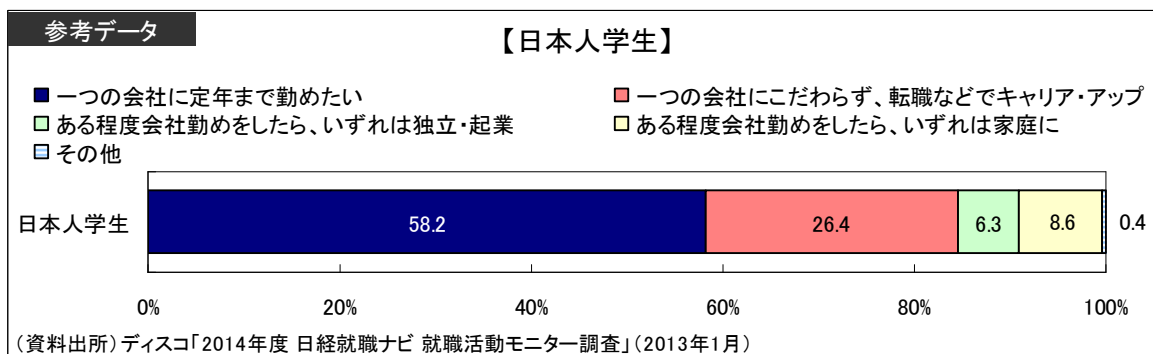
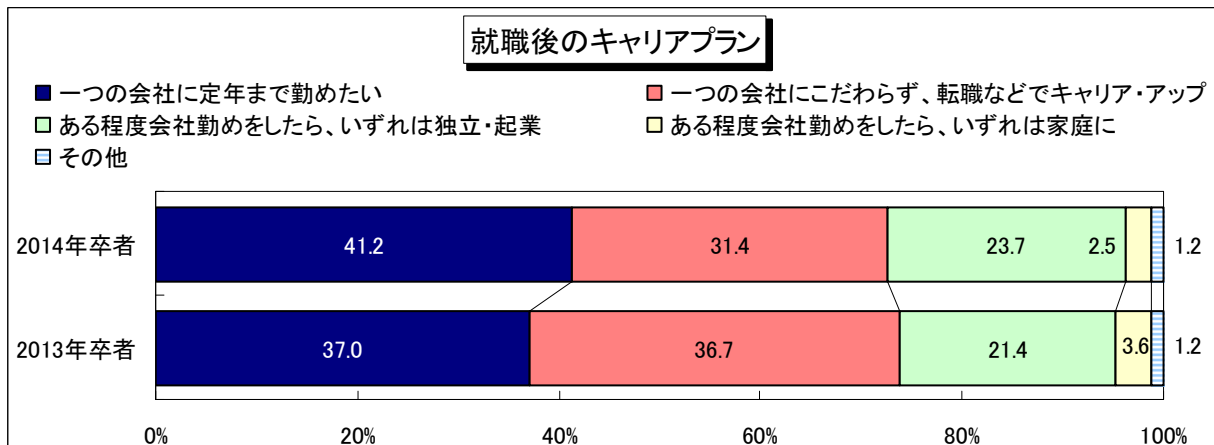
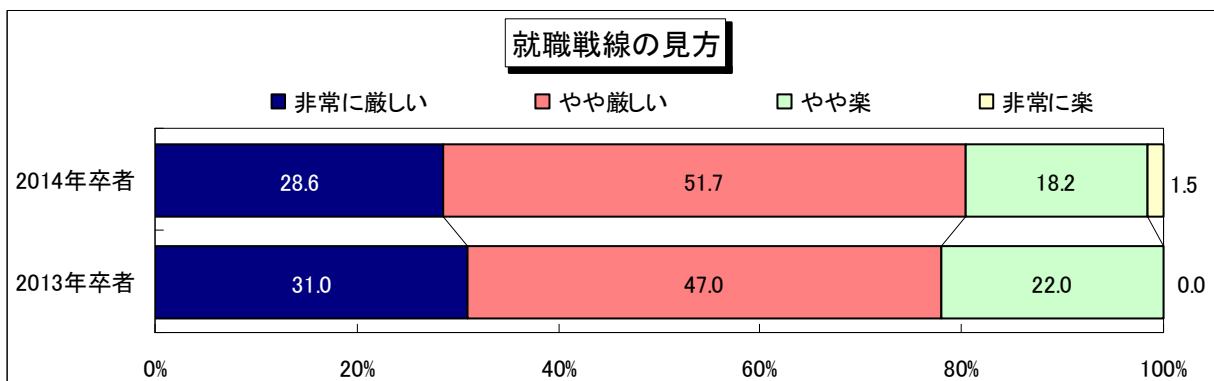
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職戦線の見方と就職後のキャリアプラン

日本の大学に通う外国人留学生（現在大学4年生および修士2年生。以下、「留学生」と表記）は、自分たちの就職戦線が一学年上の先輩達に比べてどのようになるとみているのか。その見通しを聞いたところ、「非常に厳しい」28.6%、「やや厳しい」51.7%とあわせて80.3%が厳しいと回答。企業のグローバル化が進み、留学生採用に注目が集まっているものの、就職戦線については引き続き厳しい状況が続くとみる留学生が大半だ。

就職後のキャリアプランについては、「一つの会社に定年まで勤めたい」が41.2%で最多となった。4割強が定年まで勤めるつもりで就職先を探している。一方で、「一つの会社にこだわらず、転職などでキャリア・アップを図りたい」が31.4%「いずれは独立・起業したい」という留学生も23.7%にのぼり、日本人学生よりは独立志向、キャリア・アップ志向が旺盛と言える。

ちなみに、日本人学生（日経就職ナビ・就職活動モニター。以下同じ）に同様の質問をしたところ、「一つの会社に定年まで」58.2%と6割弱を占め、留学生より17ポイント多かった。逆に「独立・企業」はわずか6.3%にとどまり、両者のキャリアプランの違いがはっきりと表れている。



2. 現時点での志望業界

調査時点での志望業界を、40業界の中から5つまで選んでもらった。文系では「商社（総合）」が男子60.2%、女子50.7%と群を抜き、「商社（専門）」も男子で2位、女子で3位にきていることから、文系学生の商社人気の様子がはっきり表れている。日本人学生は「銀行」がトップだが、留学生では男女ともに4位だった。一方で、理系学生は男子が「情報・インターネットサービス」36.4%、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」34.5%とIT業界に人気集中しており、女子は「電子・電機」「商社（総合）」が共に25.9%で1位となった。理系は専攻を生かした業界を志望する傾向が強い。その他、「ホテル・旅行」が文系女子で28.7%、「証券・投信・投資顧問」が文系男子で21.5%などと、留学生を積極的に採用する業界が上位にくることも特徴と言える。

志望業界（上位15業界）

※5業界まで選択 (%)

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	商社（総合） 60.2	商社（総合） 50.7	情報・インターネットサービス 36.4	電子・電機 25.9
2	商社（専門） 37.6	ホテル・旅行 28.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.5	商社（総合） 25.9
3	電子・電機 24.7	商社（専門） 25.3	自動車・輸送用機器 32.7	水産・食品 22.2
4	銀行 23.7	銀行 20.0	機械・プラントエンジニアリング 30.9	医薬品・医療関連・化粧品 22.2
5	証券・投信・投資顧問 21.5	調査・コンサルタント 19.3	電子・電機 27.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.2
6	精密機器・医療用機器 17.2	情報・インターネットサービス 18.0	精密機器・医療用機器 21.8	情報・インターネットサービス 22.2
7	素材・化学 16.1	医薬品・医療関連・化粧品 16.7	建設・住宅・不動産 20.0	素材・化学 18.5
8	自動車・輸送用機器 16.1	水産・食品 15.3	商社（総合） 20.0	機械・プラントエンジニアリング 18.5
9	エネルギー 16.1	素材・化学 15.3	鉄鋼・非鉄・金属製品 18.2	精密機器・医療用機器 18.5
10	建設・住宅・不動産 14.0	百貨店 15.3	通信関連 18.2	調査・コンサルタント 18.5
11	機械・プラントエンジニアリング 14.0	運輸・倉庫 14.7	エネルギー 16.4	建設・住宅・不動産 14.8
12	鉄鋼・非鉄・金属製品 12.9	電子・電機 14.0	商社（専門） 14.5	自動車・輸送用機器 14.8
13	ホテル・旅行 12.9	マスコミ 13.3	水産・食品 10.9	銀行 14.8
14	調査・コンサルタント 12.9	鉄鋼・非鉄・金属製品 12.7	素材・化学 10.9	ホテル・旅行 14.8
15	医薬品・医療関連・化粧品 11.8	証券・投信・投資顧問 12.7	銀行 9.1	官公庁・団体 14.8
16	運輸・倉庫 11.8	人材紹介・人材派遣 12.7	証券・投信・投資顧問 9.1	
			調査・コンサルタント 9.1	

参考データ

【日本人学生】の志望業界（上位5業界）

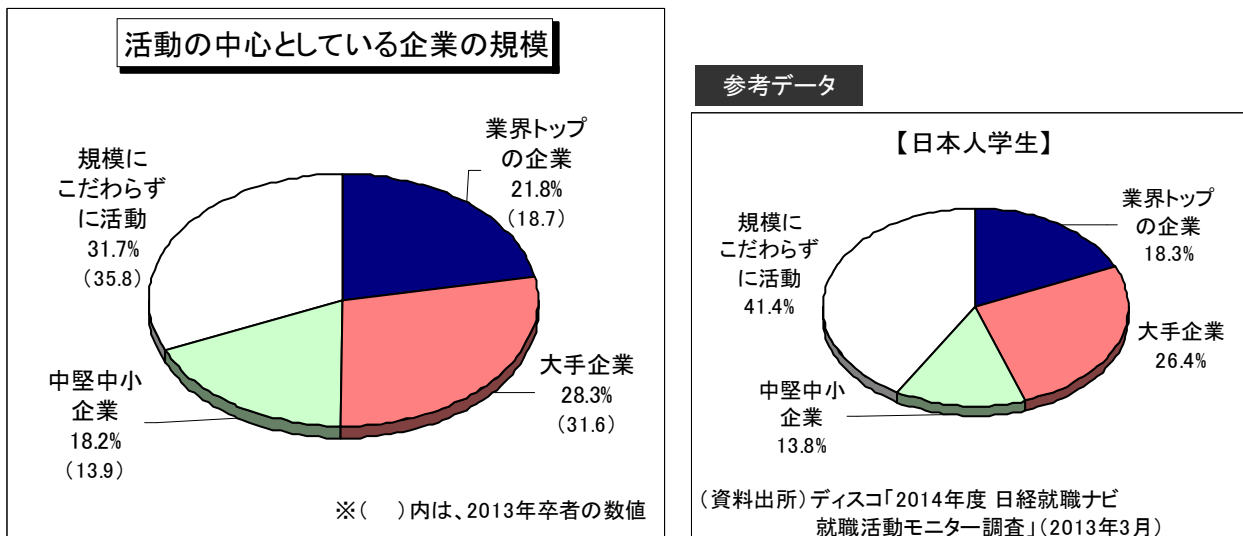
（%）

	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 39.6	銀行 37.1	電子・電機 28.2	医薬品・医療関連・化粧品 33.8
2	商社（総合） 21.7	マスコミ 21.2	情報・インターネットサービス 22.2	水産・食品 32.5
3	運輸・倉庫 19.2	商社（専門） 20.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 21.6	素材・化学 25.8
4	商社（専門） 16.7	運輸・倉庫 20.1	素材・化学 20.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.9
5	マスコミ 15.8	保険 19.8	エネルギー 20.0	官公庁・団体 19.9

（資料出所）ディスコ「2014年度 日経就職ナビ 就職活動モニター調査」（2013年3月）

3. 就職活動の中心としている企業の規模

就職活動の中心としている企業は「業界トップ企業」21.8%、「大手企業」28.3%と大企業が半数を占め、日本人学生に比べても大手企業志向が強いことがわかる。留学生の採用実績のある企業に大手が多いことや、中小企業に関して日本人学生以上に知る機会が少ないことなどが要因だろう。



4. 企業へのエントリーとセミナー参加の状況

調査時点での企業へのエントリー社数は、一人あたりの平均で34.8社。同じ時期の日本人学生の平均（74.2社）と比べると、約半数の水準だ。

セミナーの参加社数を見ると、企業単独開催セミナーは10.4社と日本人学生（18.1社）の6割ほどにとどまるが、合同開催セミナーでの訪問社数16.6社、学内開催セミナーでの訪問社数11.0社と、日本人学生と変わらない社数となっている。

エントリー社数はそれほど多くないものの、学内外の合同企業セミナーも効率的に活用しながら、積極的に活動を進めている様子が見える。

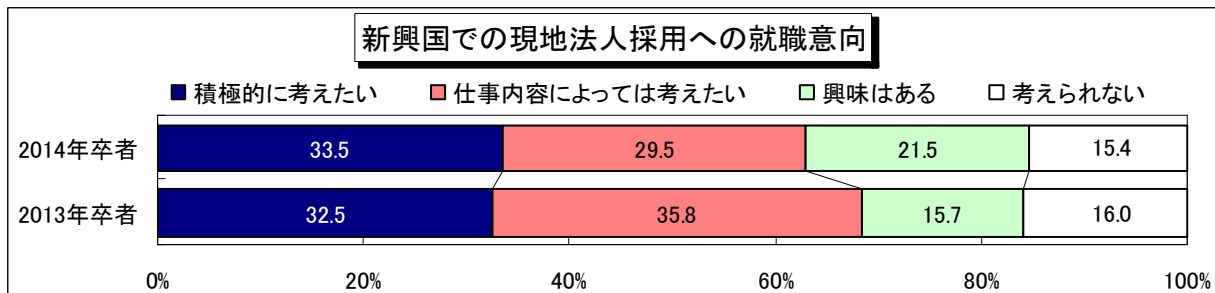
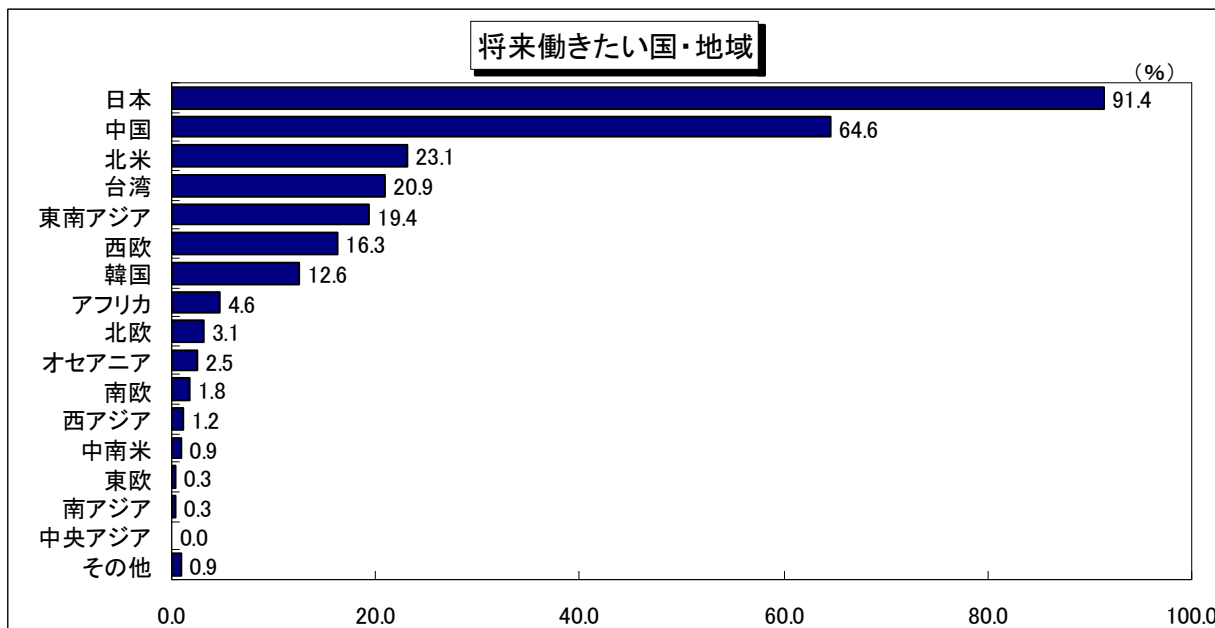
エントリー社数						(社)
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	【日本人学生】
エントリー社数	34.8	34.5	39.0	27.4	28.0	74.2

セミナー参加社数						(社)
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	【日本人学生】
企業単独開催セミナーの社数	10.4	11.6	10.3	9.8	8.0	18.1
合同開催セミナーでの訪問社数	16.6	19.3	15.9	15.3	14.2	15.2
学内開催セミナーでの訪問社数	11.0	10.7	11.8	10.5	8.1	12.0
合計	38.0	41.5	38.1	35.7	30.2	45.4

※「日本人学生」は、ディスコ「2014年度 日経就職ナビ 就職活動モニター調査」(2013年3月)の数値

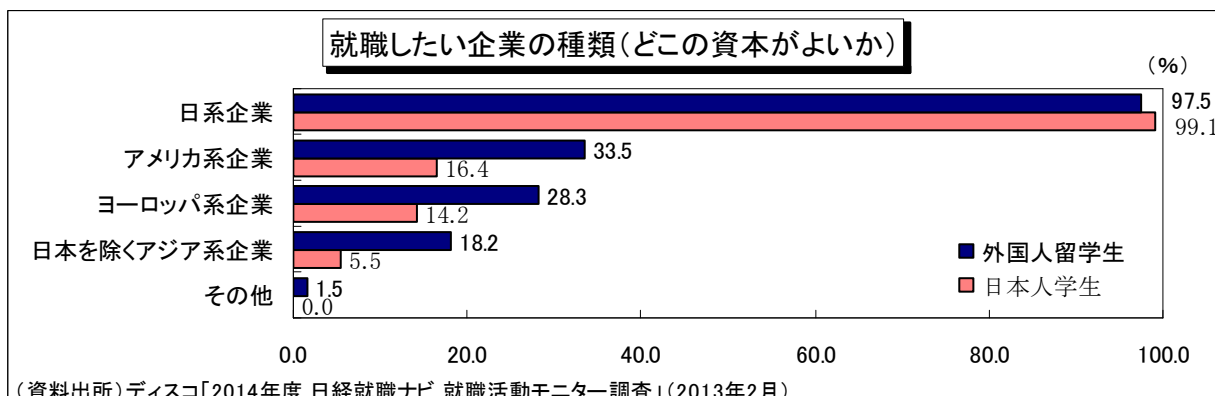
5. 将来働きたい国・地域

将来どの国で就職したいか、3つまで選んでもらった。やはり「日本」が91.4%と圧倒的に多い。以下、「中国」64.6%、「北米」23.1%、「台湾」20.9%と続く。日本に在籍する留学生の6割以上が中国からの留学生であることから、将来的には母国語の通じるエリアで働くことも意識しているのだと思われる。また、アジアを中心とした新興国での現地法人採用を就職の選択肢として加える可能性があるかを聞いたところ、「積極的に考えたい」が33.5%、「仕事内容によって考えたい」は29.5%とあわせて63.0%となった。昨年調査より5.3ポイント下がっているものの、現地基準の賃金・待遇での採用に対して、高い意欲を見せている。



6. 就職したい企業の種類

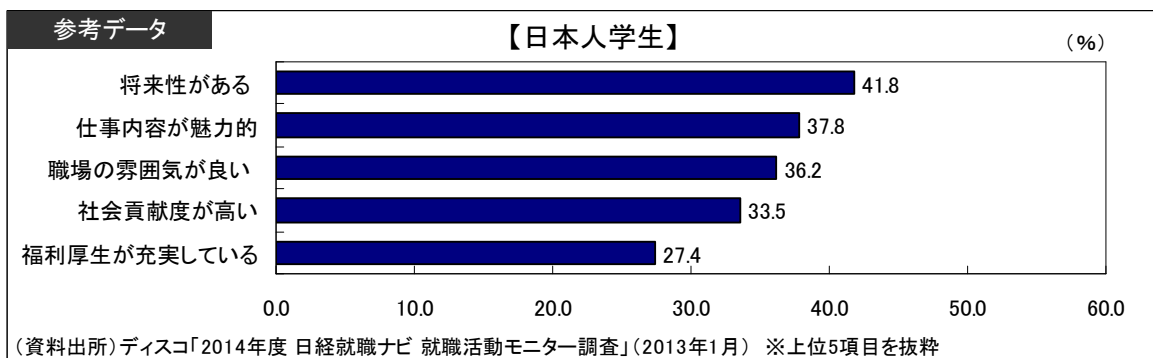
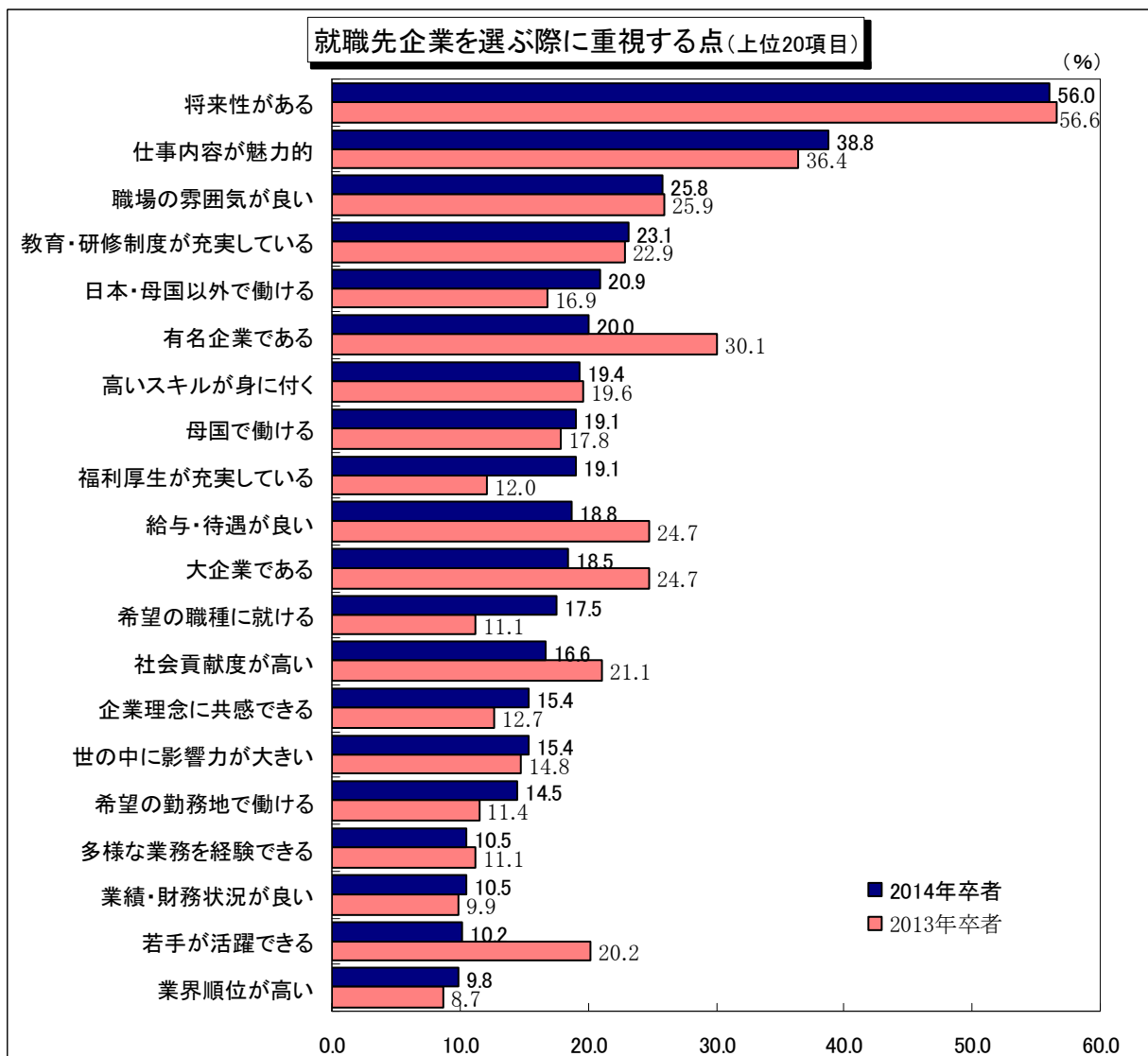
「日系企業」での就職を希望している留学生は97.5%で、やはり圧倒的に多い。以下「アメリカ系企業」33.5%「ヨーロッパ系企業」28.3%と続く。日本人学生に比べ幅広く捉えている。



(資料出所)ディスコ「2014年度 日経就職ナビ 就職活動モニター調査」(2013年2月)

7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

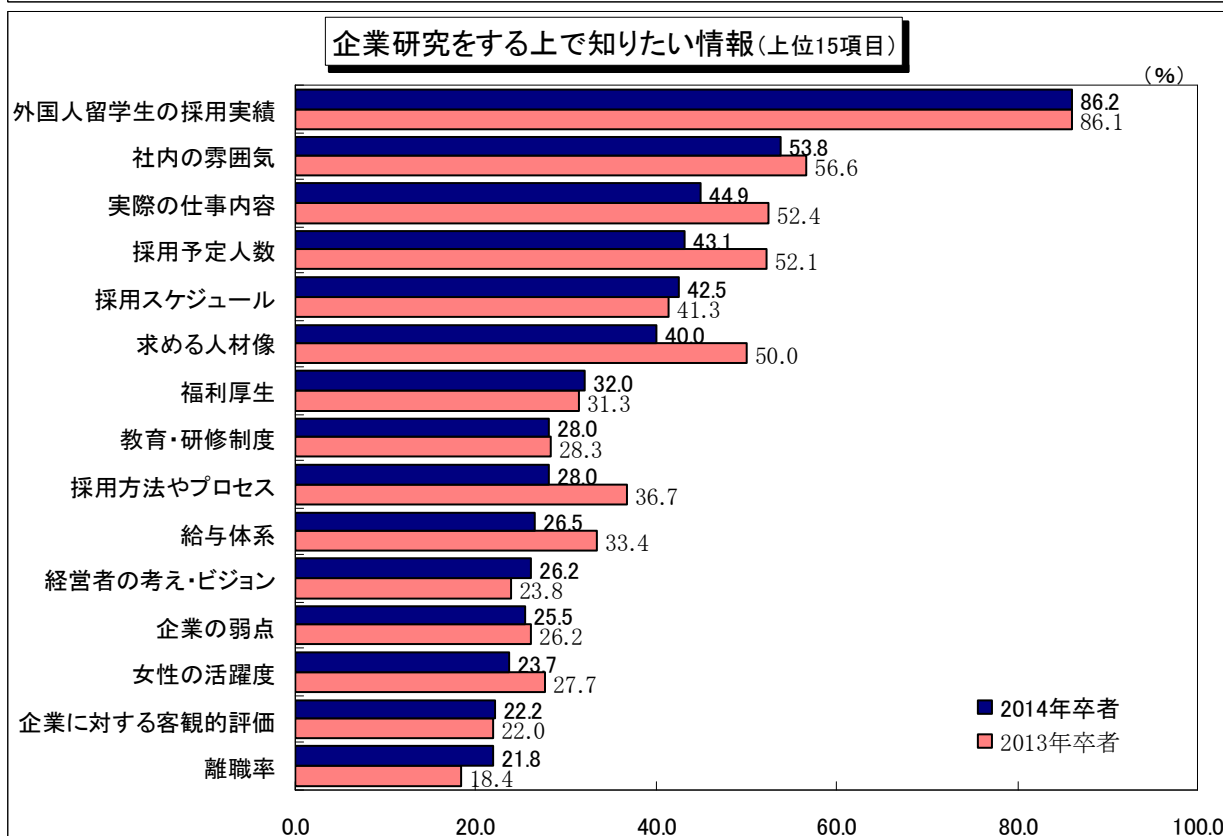
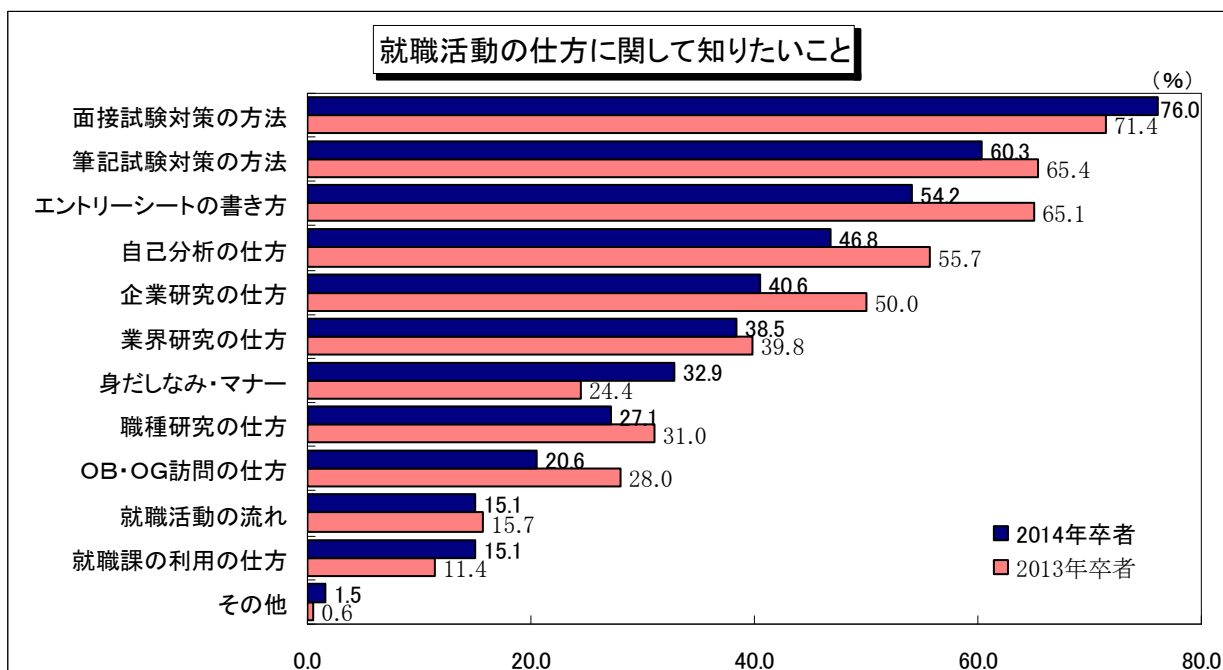
就職先企業を選ぶ際に重視する点を、31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。昨年
に続き、群を抜いて高い数値になったのは「将来性がある」で56.0%、「仕事内容が魅力的」38.8%
「職場の雰囲気が良い」25.8%と続く。昨年調査に比べて大きく順位を下げているのは「有名企
業である」で、約10ポイントのダウン。留学生がよく知る有名企業・大企業におけるリストラに
関する報道などが影響しているのではないかと思われる。ただし、4ページで見たように、日本
人学生に比べれば留学生のほうが大手志向は強い傾向にある。



8. 就職活動および企業研究で知りたいこと

就職活動の仕方に関して知りたいことを聞いた。1位は「面接試験対策の方法」で76.0%。以下、2位「筆記試験対策の方法」60.3%、3位「エントリーシートへの書き方」54.2%と続く。

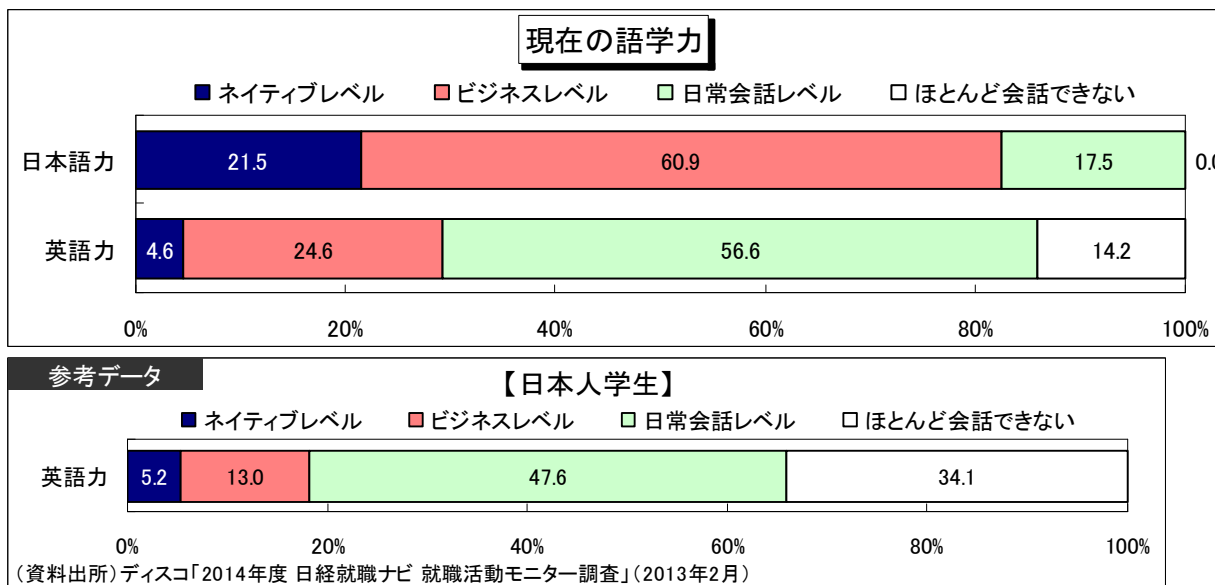
企業研究をする上で知りたい情報については、「外国人留学生の採用実績」が86.2%で昨年調査に引き続き1位となった。「優秀であれば採用するといわれても、実際に留学生を採用したいと思っているのかわからない」（文系男子）といった声が多く見られ、2位の「社内の雰囲気」53.8%、3位の「実際の仕事内容」44.9%とは大きな開きがあることからその切望の強さがわかる。



9. 現在の語学力

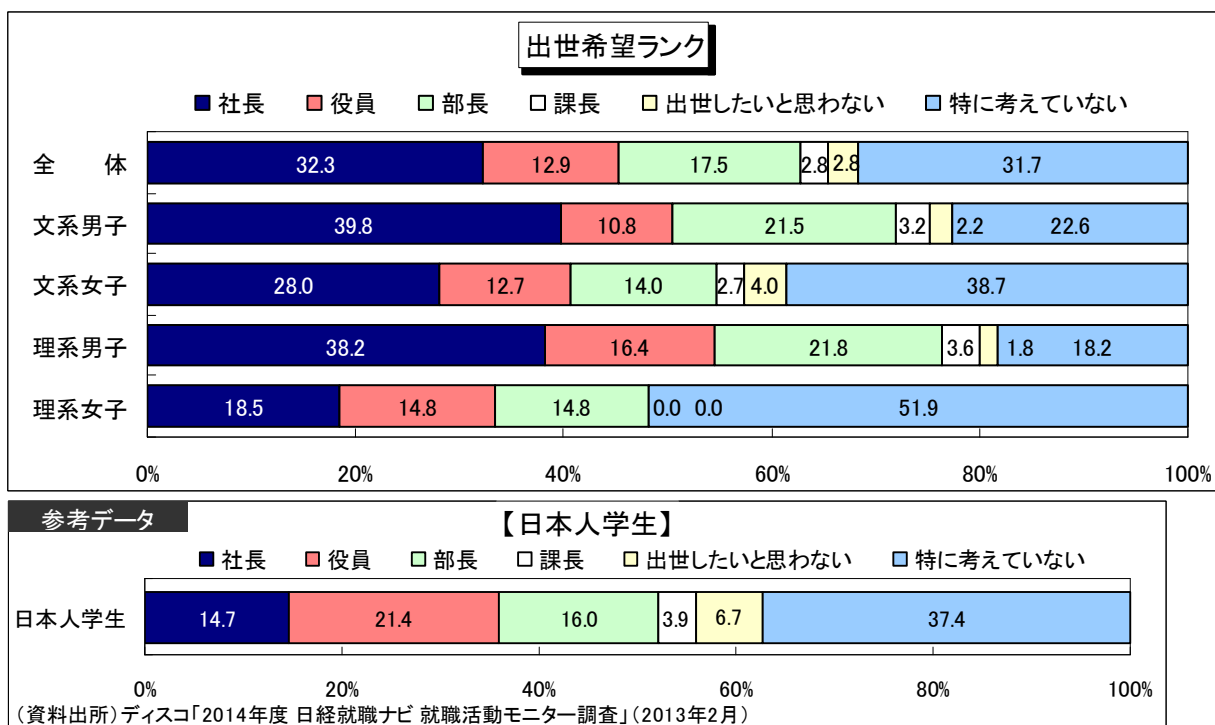
現在の語学力について聞いた。日本語については「ネイティブレベル」21.5%、「ビジネスレベル」60.9%とビジネスレベル以上が82.4%と大多数。英語は「日常会話レベル」が56.6%と半数以上を占めるが、「ネイティブレベル」4.6%、「ビジネスレベル」24.6%とあわせて約30%がビジネスレベル以上の英語力を持っていると回答した。

なお、日本人学生の英語力は、「ほとんど会話できない」が34.1%と3割強を占める。



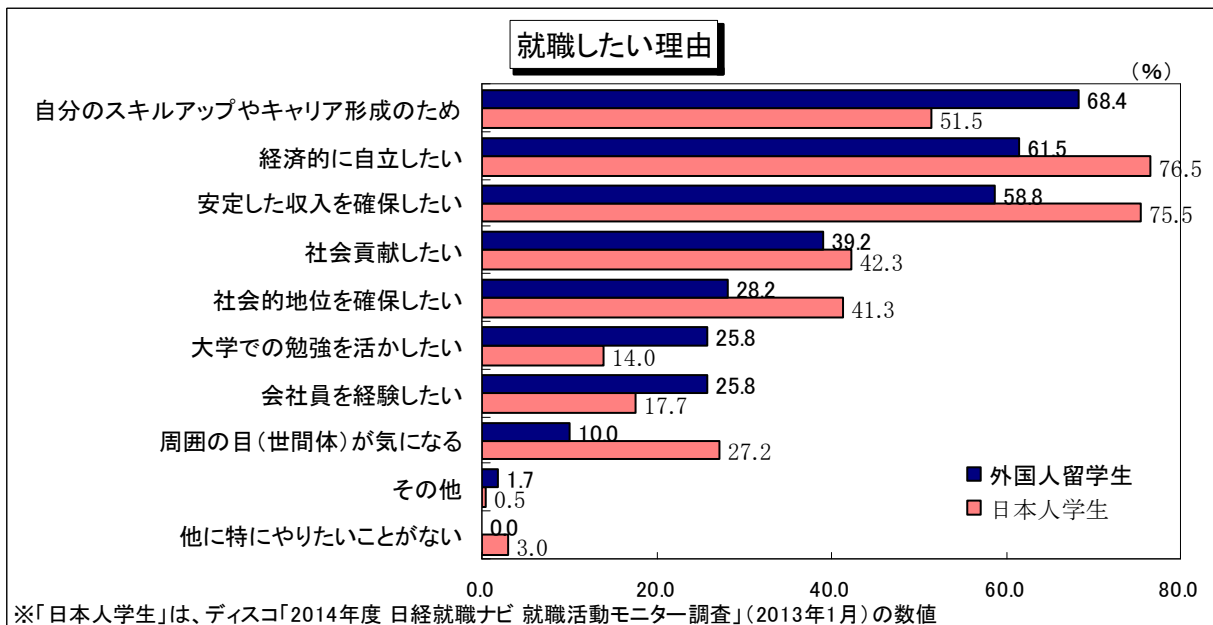
10. 出世希望ランク

将来どこまで出世したいのかを聞いた。「社長」が最も多く全体で32.3%となり、文系男子では39.8%、理系男子が38.2%などと、出世意欲が高いことが特徴的だ。以下、「役員」12.9%「部長」17.5%など、責任ある役職を希望する留学生が多数存在することから、今後、企業が外国人社員をどのように活用しているのかといった観点にも注目が集まるだろう。ちなみに、日本人学生では「社長」と回答したのは14.7%にとどまり、留学生との差は2倍以上。



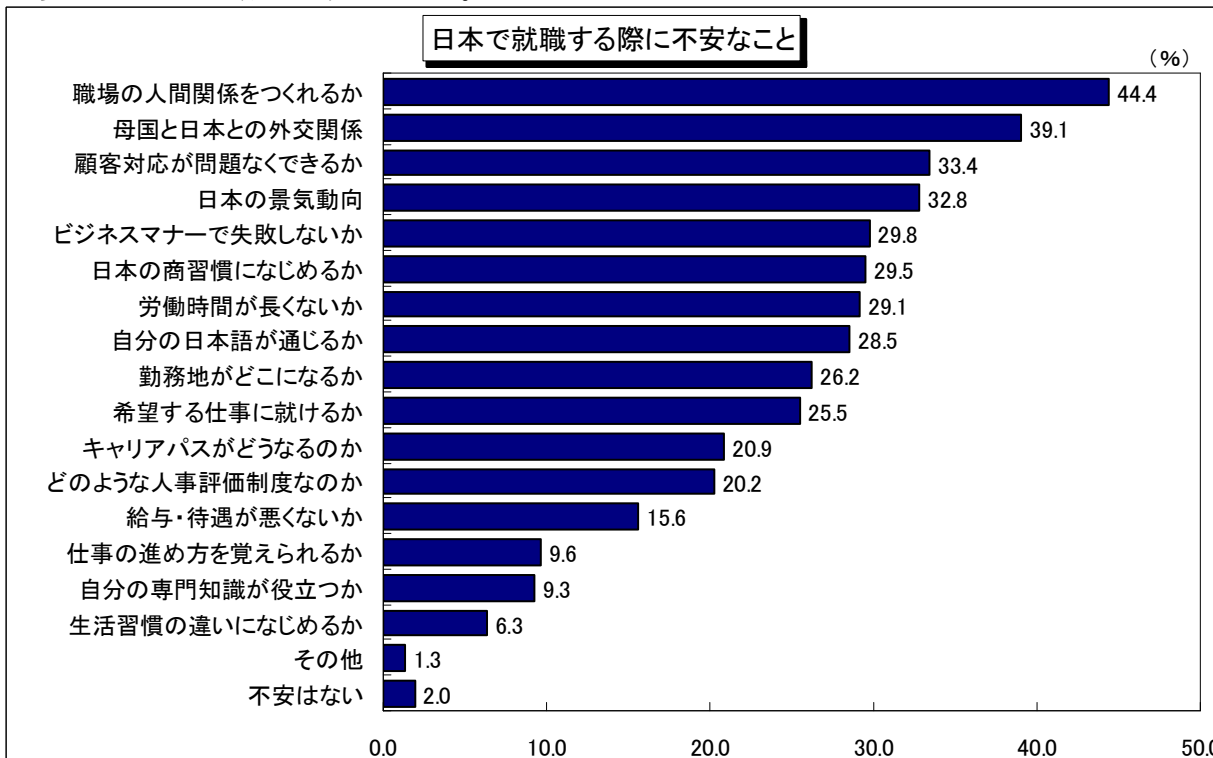
1 1. 就職したい理由

就職をしたい理由について聞いた。「自分のスキルアップやキャリア形成のため」が68.4%で1位になった。以下、「経済的に自立したい」61.5%、「安定した収入を確保したい」58.8%と続く。日本人学生とは異なり、収入や地位よりもスキルアップに意欲的な留学生の姿勢がうかがえる。



1 2. 日本で就職する際に不安に感じること

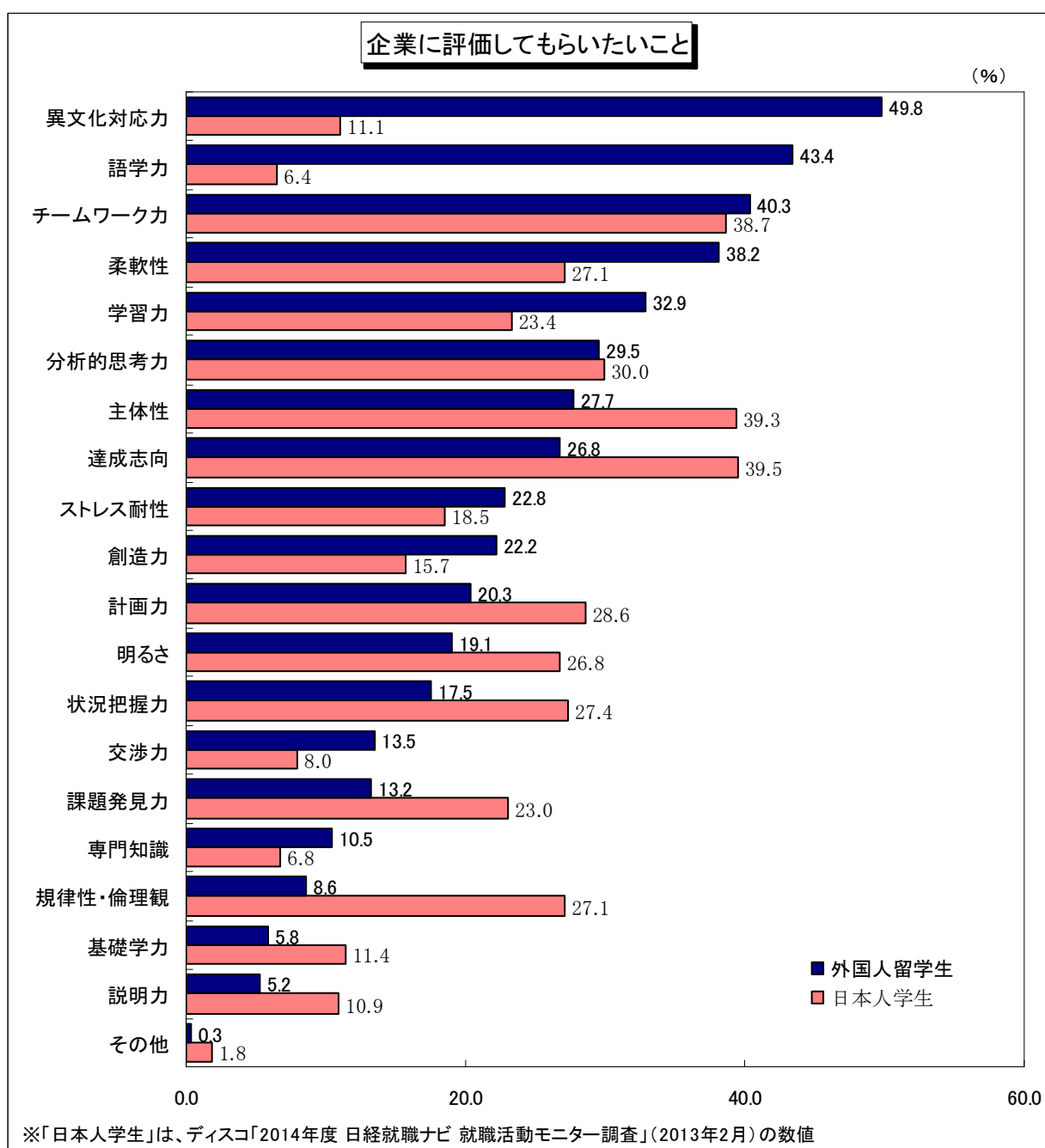
日本で就職する際に不安に感じることで最も多かったのは、「職場の人間関係をつくれるか」で44.4%。「顧客対応が問題なくできるか」33.4%など自身の仕事に対する個人的な不安もあるが、中国・韓国出身者を中心に「母国と日本との外交関係」を選ぶ人も多く（39.1%）、「日本の景気動向」32.8%なども考えあわせると、外国人として日本という国で働くことを客観的にとらえ、不安を感じている様子もうかがえる。



13. 企業に評価してもらいたいこと

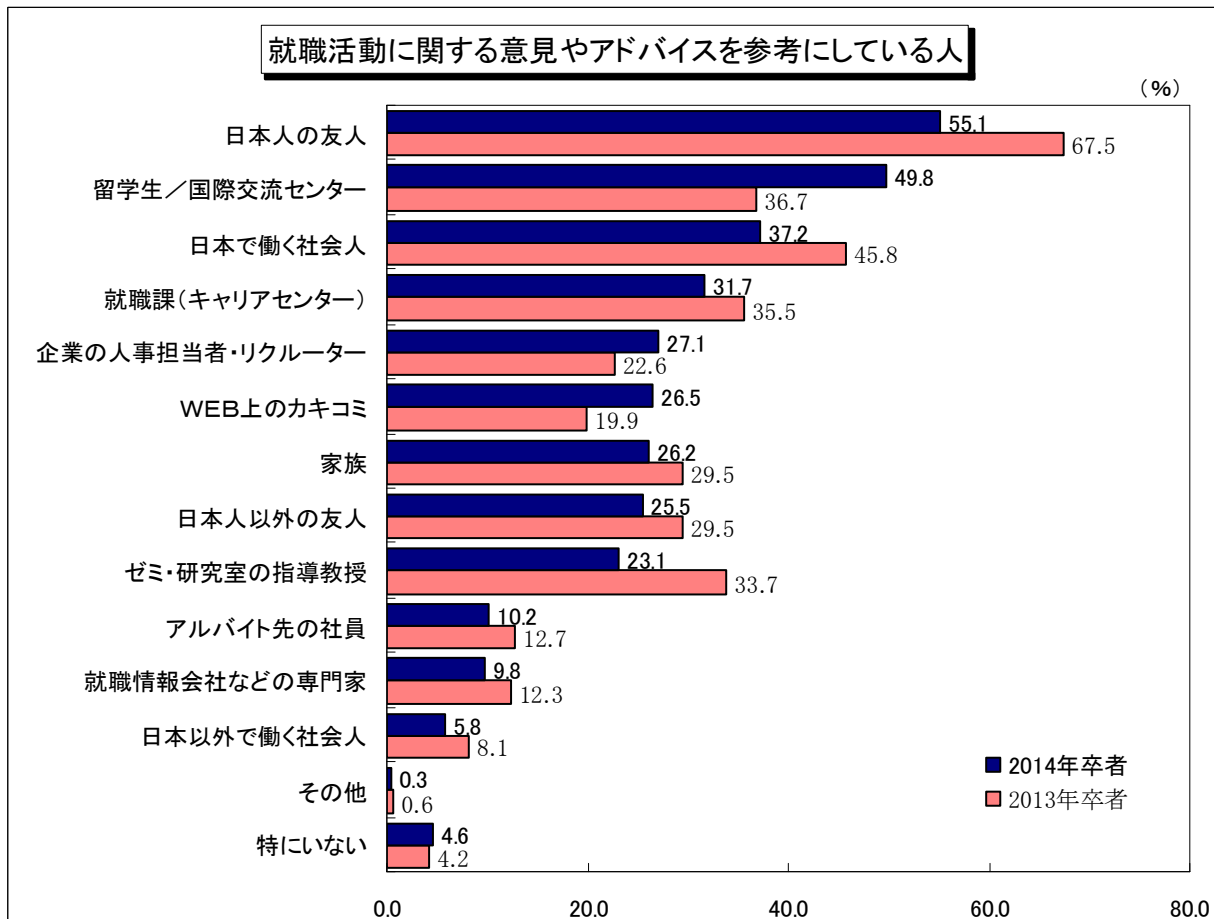
就職活動で企業にぜひ評価して欲しいことを聞いた。選択肢から5つまで選んでもらったところ「異文化対応力」49.8%、「語学力」43.4%、「チームワーク力」40.3%の順に多かった。「チームワーク力」は日本人学生においても38.7%と高いが、上の2項目については留学生と日本人学生の差は非常に大きい。

日本人学生においてトップ項目だった「主体性」「達成志向」については、留学生では7位、8位とそれほど高くはなかった。また、日本人学生で27.1%あった「規律性・倫理観」も、留学生では8.6%と差が大きい。



14. 就職活動に関するアドバイスを参考にしている人

留学生は就職活動に関して誰の意見やアドバイスを参考にしているのかを聞いた。「日本人の友人」55.1%が昨年調査同様に1位だったが、今回の調査では「留学生／国際交流センター」が49.8%と13ポイントあまり増え、2位になった。「就職課（キャリアセンター）」も4位と上位にきており、大学の支援を頼りにしている様子が見えてくる。



■就職活動に関して思うこと

- 大変ですが楽しいこともたくさんあります。新しい所に行って、新しい人と出会って、新しい情報や知識を身につけています。就職活動をしてよかったと思います。 <ベトナム出身>
- 留学生はグローバルにビジネスを展開していない企業に需要はあまりないですし、海外と取引を行っている中小企業の場合は、安定しているかどうかよくわからないので、結局大手企業限定な状況になってしまいがちです。入れる企業が限定されている分、競争も激しくなるので、不安でしかたがありません。 <中国出身>
- 就活するにあたって、働きたい企業を選ぶのに企業に求めるものをプライオリティ順にしたほうが企業を絞りやすいと今回わかりました。 <ケニア出身>
- 何より面接が多く、内定に至るまで時間がかかるのは、体力的にも精神的にも参ってしまう。 <韓国出身>
- 大変です。エントリーシートを書くだけでとても時間かかります。選考のプロセスが多すぎます。 <中国出身>
- 日本の会社は年齢制限があり、それに、日本語に対する要求も高いです。 <中国出身>
- 外国人留学生採用の目的は労働力不足だけではなくて、国際化、共存共栄、外交、平和等も考えるべきだと思います。 <ミャンマー出身>

15. 日本への留学について

日本に留学をしたことについて、「大変良かった」49.8%、「良かった」45.5%と、あわせて95.3%が良かったとの感想を持ち、充実した学生生活を送ってきたことがうかがえる。

留学前に不安に思っていたことで多いのは「留学・生活費用」65.5%、「語学力不足」49.2%、「生活習慣・価値観の違い」35.1などだが、留学後に困ったことでは数値が下がり、予想していたほど困難ではなかったようだ。一方で、「就職活動」については、留学前に不安に思っていた学生は32.9%だったのに対し、実際に困ったことでは42.8%を選んだ。日本企業のグローバル採用拡大を背景に、留学生採用に積極的な企業は増えているが、それでも日本での就職活動に困難だと感じる留学生は少なくないことが分かる。

